

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	国語
科目基礎情報						
科目番号	0069		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子機械工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	「伝わる日本語」練習帳					
担当教員	要 弥由美					
到達目標						
実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。 新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
体裁・語句の選定	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		実用的な文章(手紙・メール)を、ある程度、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できない。	
適切な情報収集	報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。		報告・論文の目的に応じて、ある程度、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。		報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できない。	
情報分析と整理	収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。		ある程度、収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。		収集した情報を分析し、目的に応じて整理できない。	
論理構成と展開	報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。		ある程度、報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。		報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成できない。	
口頭による伝達	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。		作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、ある程度、正確に口頭発表することができる。		作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、口頭発表できない。	
相互理解	相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。		ある程度、相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。		相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめるできない。	
適切な主張の展開	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。		新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践しようとすることができる。		新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教養 D2						
教育方法等						
概要	社会人になる準備として、文の読み書きについて以下の3点ができるようになることを目指す。 1. 伝えたい内容が正確に伝わる文を書くこと。 2. 文字情報を速く読め、理解できること。 3. できるだけ読み手の負担にならない文を書くこと。					
授業の進め方・方法	教科書の例題を解説したのち、演習Aをやって、全体で内容・言語技術を確認する。その後、各自演習Bをやって、提出する。 例題や演習Aについては、グループ学習を取り入れるので、授業に際しては、班別に分かれて着席しておくこと。					
注意点	提出用の課題ノートを1冊用意すること。課題ノートは、ドットノートなど罫目の設定が可能なものを用いること。 3種類以上の色のペンまたは色鉛筆を用意すること。 演習Bの課題のうち、数回は平常点に加味する課題を出す。その他の課題については、成績の点数には直接関係はないが、やっておかないとその部分の言語技術が身につかず、最終的に課題が達成できなくなるので、積極的にこなすことを求める。					
実務経験のある教員による授業科目						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 適切な言葉を選ぶ①	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		
		2週	適切な言葉を選ぶ②	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		
		3週	簡潔な文を書く①	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。		
		4週	簡潔な文を書く②	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。		

		5週	簡潔な文を書く③	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。
		6週	パラグラフを書く①	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。
		7週	パラグラフを書く②	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	パラグラフを書く③	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。
		10週	パラグラフを書く④	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。
		11週	パラグラフを書く⑤	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。
		12週	パラグラフを書く⑥	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。
		13週	文章全体を構成する①	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。 報告・論文を、整理した情報に基づいて、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。
		14週	文章全体を構成する②	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。 報告・論文を、整理した情報に基づいて、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験解説／成績確認	

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	0	50
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0
応用能力	0	50	50